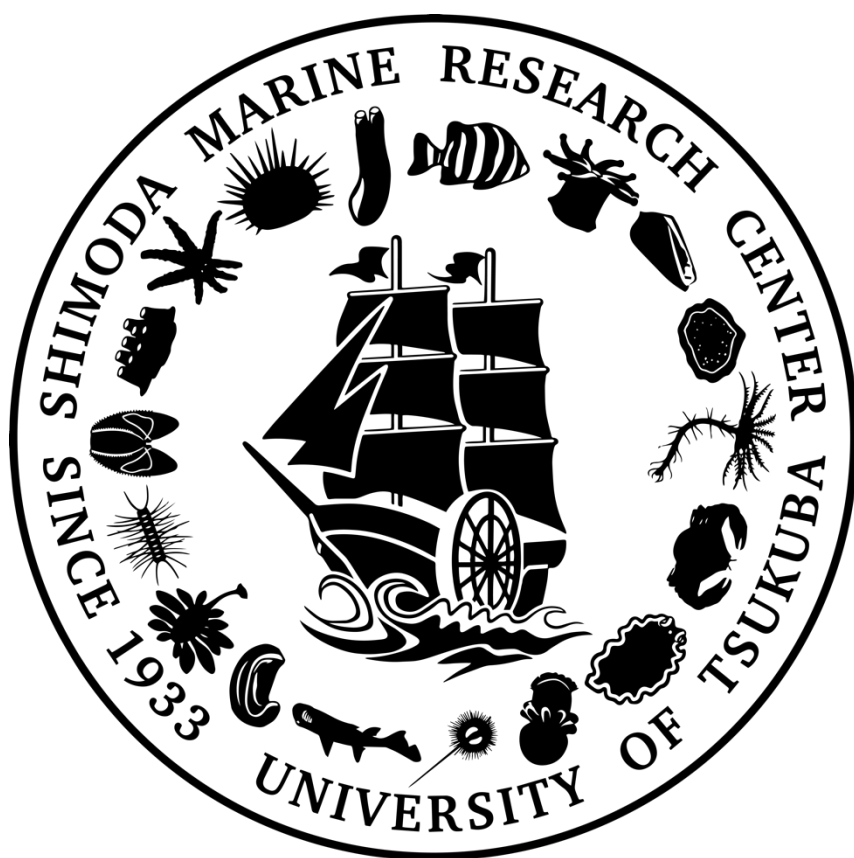


筑波大学下田臨海実験センター

年次報告書

令和7年度版

(2025年度版)



2026年3月

活動の概要

下田臨海実験センターは、海のいきものに関して、分子から細胞、発生、生理、系統進化、生態、環境など幅広い観点から研究を行っています。なかでも式根島沿岸において、二酸化炭素が噴出している CO2 シープを発見して以来、当センターは式根島ステーションを開所し、海洋酸性化の国際研究拠点として活動しています。このような背景をもとに、当センターは国内有数の臨海実験施設として、国内外の大学、研究機関から多くの研究者を迎え入れ、さまざまな共同研究を展開しています。今後も海外の動向を見据えながら、海外研究機関との連携を強化し、世界の海洋研究の発展に貢献していく所存です。

当センターを構成する教員は多士済々であり、人事面では細胞生物学分野の柴助教はお茶の水女子大学へ、進化生態学分野の香川助教は東海大学へ、それぞれ令和7年度をもって転任することとなりました。それぞれ引き続き活躍されることを祈念しています。昨年度から相次ぐ中堅教員の栄転によってセンターは過渡期を迎えていますが、一方で若手の露木助教の採用が決定し、さらに若手人材を採用する計画です。下田臨海実験センターの優れた研究環境を活かして、人材の好循環が生まれることを期待しています。

運営面に関しては、国際情勢の緊迫化に伴う燃料費高騰のあおりを受けて、調査船の使用料金を改定することとしました。また大実習室の海水シンクを改修しました。さらに、数年前より懸案であった海水導入管の修繕が、多くの学内組織長の協力と賛同を得て学内予算で措置されることが検討されました。地域に愛され国際的認知度も高い当センターが、持続的に発展し、また新たなメンバーを加えて飛躍することを願っています。

下田臨海実験センター長 千葉 智樹

要 覧

センター概要

筑波大学下田臨海実験センターは、伊豆半島南部の豊かな海洋環境に囲まれた海洋生物学の研究教育施設です。海は地球上の生命の源であり、生物の多様性を生みだしてきました。地球と我々人間を理解するためには、海洋生物に関する知識が不可欠です。21世紀は生命科学と環境の時代です。下田臨海実験センターは、生命の基本原理と生物間の相互作用についての理解を深めるために、海洋生物に関する基礎科学と先端科学の研究・教育を行っています。

センターには、8名の教員が所属しており、分子生物学、細胞生物学、生理学、発生生物学、分類学、動物行動学、生態学など、分子から生態に至るまで、さまざまな視点から海洋生物の研究を行っています。また、国内外の大学、研究機関から多くの研究者が訪れ、共同研究を展開しています。海洋生物学は生物学を目指すもののみならず、幅広い分野の人材育成に重要です。センターでは、筑波大学生物学類や生命地球科学研究群をはじめ、国内外の他大学の臨海実習が行われています。

所在地と環境

センターは下田市街より南へ丘を一つへだて、下田湾の分枝である大浦湾の奥に位置します。湾外は直ちに黒潮洗う外洋ですが、湾内にはわずかながら内湾的環境も散見されます。温帯と亜熱帯の局面に位置しているため、温帯を代表するアラメやカジメの海中林と熱帯に生息する造礁サンゴが共存していますが、今まさにこれらの生態系の変化が現れつつあります。

センターで使用されている海産生物は、カタユウレイボヤ、シロボヤ、ベニボヤ、バフンウニ、ハリサンショウウニ、ムラサキウニ、アカウニ、ガンガゼ、ウミシダ、ウミウシ、平板動物、珍渦虫、無腸動物、扁形動物、カブトクラゲ、サンゴ、マコガレイ、ウシノシタ、ヒラメ、ニシキベラ、イセエビ、マガキガイ、カジメ、ムチモ、ヒジキ、ハバノリなどです。

施設・設備

センター敷地には、3つの研究実験棟、実習棟、海洋生物飼育室、海洋観測棟、宿泊施設などがあります。フィールド調査・実験に必要な潜水や採集のための器具や設備、屋内実験を行うための各種水槽、濾過海水設備、分子生物学、生化学、細胞生物学の研究に必要な機器が揃っています。他に組換え DNA 実験室、実験動物飼育室（マウス）、トランスジェニック動物飼育室、セミナー室、図書室が完備されています。海水は水深 3 m からタンクに常時くみ上げ、飼育施設や実験室に供給されています。船舶が利用でき、ドレッジ、トロール、プランクトンネット等を用いた生物調査・採集が行えます。センターから南東 45 km ほどに位置する式根島（東京都新島村）には海洋酸性化プロジェクトのための研究施設「式根島ステーション」があり、国内外から多くの研究者が滞在し調査、解析を行っています。

潜水器材

ウェットスーツ・タンク・マスク・シュノーケル・グローブ・ブーツ・フィン

採集器具

プランクトンネット、ニューストーンネット、エクマンバージ、スミスマツキンタイヤ、ドレッジ、ソリネット、トロールネット、ニスキン

研究設備

質量分析計 TOF-MS、元素分析-同位体比質量分析計、ライトシート顕微鏡、超解像度顕微鏡 LatticeSIM、DNA シーケンサー、PCR 装置（定量 PCR 含む）、マイクロプレートリーダー、各種光学顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡、電子顕微鏡（TEM、SEM）、軟エックス線撮影装置、カルシウムイメージング装置、高速ビデオカメラ、HPLC、CTD センサー、超低温槽など。

宿泊施設

実習生、センター常駐の大学院生や外来利用者のために、2階建て W 棟、3階建て E 棟の 2 棟の宿泊棟があり合計 33 名が収容可能です。食堂、浴室、談話室が整備されており、食事は平日の 3 食を希望に応じて提供しています。

建物・設備一覧

下田臨海実験センター

建物 (延 3,931m²)

第 1 研究棟 鉄筋 3 階建 (研究室 10, 実験室 9, 観測測定室 2, 電頭室 2, 標本室 1, 図書室 1, 演習室 1, 暗室 3, 印刷室 1, その他 6)

第 2 研究棟 鉄筋 2 階建 (研究室 3, 実験室 5, 講義実習室 1, 資料保存室 1, 分析室 1, 暗室 1)

第 3 研究棟 鉄筋 2 階建 (研究室 4, 実験室 1, 共同分析室 1, 共同研究スペース 1, 会議・セミナー室 1, 測定機器室 1, その他 3)

実習棟 鉄筋平屋 (大実習室 1, 室内飼育室 2)

海洋観測棟 鉄筋平屋 (海洋観測室 1, 資料保存室 1, 作業室 1, シャワー室 1)

宿泊棟 鉄筋 3 階建 (洋室 33, 食堂 1, 浴室 2, シャワー室 3)

船 舶 つくば II (19t, 612 馬力×2, 定員 40 名)

カレッタ (0.5t, 9.9 馬力, 定員 6 名)

S M R C (ゴムボート, 8 馬力, 定員 4 名)

オベリア (FRP 手漕ぎボート, 定員 2 名)

海水設備 水深 3 m から新鮮な海水を海拔約 13m にある 56 トンタンクに常時汲み上げ、屋内外の飼育施設および各研究棟の実験室に枯渇なく供給している。

式根島ステーション

建物 (延 149.6m²)

実験棟 木・石造り亜鉛メッキ鋼板ぶき平屋建 (実験室 2, フリーザー、顕微鏡、作業台、流しなどの設備有)

宿泊施設 木造亜鉛メッキ鋼板ぶき平屋建て (洋室 2, 和室 2, 食堂 1, 浴室 1)

船 舶 あかね (0.5t, 20 馬力, 定員 7 名)

センター職員

(分野・専門)

教員	センター長・教授	千葉 智樹 Tomoki CHIBA	分子細胞生物学 Molecular Cell Biology
	教授	稲葉 一男 Kazuo INABA	細胞生物学 Cell Biology
	教授	笹倉 靖徳 Yasunori SASAKURA	発生遺伝学 Developmental Genetics
	准教授	谷口 俊介 Shunsuke YAGUCHI	発生生物学 Developmental Biology
	准教授	中野 裕昭 Hiroaki NAKANO	進化動物学 Evolutionary Zoology
	助教	柴 小菊 Kogiku SHIBA	細胞生物学 Cell Biology
	助教	Ben HARVEY	環境生態学 Environmental Ecology
	助教	香川 理 Osamu KAGAWA	進化生態学 Evolutionary Ecology
技術職員		大植 学 Manabu OOUE	~2025.8.31
		高野 治朗 Jiro TAKANO	
		George NORTHEN	
		山根 正太郎 Shotaro YAMANE	
研究員		谷 侑磨 Yuma TANI	
		谷口 順子 Junko YAGUCHI	2025.10.16~
非常勤	研究員	笹倉 暁子	
		岩本 裕之	2025.8.1~
		Mitushasi Guinther Hiromu	2025.11.1~2025.12.15
		齊藤 瞭汰	2026.3.16~
専門員		田村 幸人	
事務職員		土屋 理恵	
		土屋 富士子	
非常勤	事務補佐員	ノーセン 真結花	2025.04.01~

非常勤	臨時用務員	山田 順子	
		田中 文子	
		渡邊 恵	
非常勤	技術補佐員	大畑 雅江	
		中野 亜子	~2025.9.30
		加納 穂澄	
		田中 佐貴子	
		小宮 万智子	
		須賀 文香	
		金守 美里	
		谷田部 牧子	

2025.4.1-2026.3.31 の期間に在籍

研究活動

1. 研究紹介

海洋生物学部門

遺伝情報学分野（笹倉）

ホヤは我々脊椎動物にもっとも近い無脊椎動物です。ホヤの1種で、ゲノム情報が整備され遺伝子操作の各種方法論が確立しているカタユレイボヤを用いて、体が作られていく際の遺伝子機能の解明と、ホヤが地球上に出現した進化の仕組みに取り組んでいます。特に、ホヤがオタマジヤクシ型幼生から固着性の成体へと体の形を大きく変化させる「変態」の仕組みに注目して研究しています。また、カタユレイボヤの遺伝子組換え技術やゲノム編集技術を用いて研究に利用される各種のトランスジェニック系統や突然変異体系統を作出し、これらの有用系統を世界中の研究者に提供するナショナルバイオリソース事業にも従事しています。

研究テーマ

- ・ホヤ発生遺伝学に関する研究
- ・ホヤ変態メカニズムの神経発生・生理学的研究
- ・ホヤに特異的な形質の獲得に関する研究

細胞生物学分野（稲葉・柴）

鞭毛・繊毛は、生物の遊泳や水流形成に重要な運動器官であり、単細胞生物から脊椎動物までその構造や機能が広く保存されています。私たちは、ホヤ、ウニ、魚類、クシクラゲなど多様な海産生物を用いて、鞭毛・繊毛の構造、機能、進化に関する研究を行っています。鞭毛・繊毛の研究を通して、受精、形態形成、進化、さらには海洋生態といった生物に普遍的に存在するメカニズム、幅広い分野の謎に迫るべく研究を進めています。

研究テーマ

- ・真核生物の鞭毛・繊毛の構造と機能と進化に関する研究
- ・精子の運動調節・受精環境への適応に関する研究
- ・海産無脊椎動物におけるゲノム科学、プロテオミクス

発生生物学分野（谷口）

私たちの研究室では、ウニの胚・幼生を用いて、発生過程における体軸の形成と神経の形成の仕組みを明らかにしています。また、神経細胞が幼生の体の動きや維持に関してどのような機能を担っているのかについても研究を行なっています。特に、光などの外的環境の変化に対する応答の描写とそ

のメカニズムを解析しています。これらの研究を通して、三次元空間であるこの地球上に我々のような生命体がどのように適応してきたのか、また、その過程に神経という存在がどのような役割を果たしてきたのかについて理解を深めようとしています。

研究テーマ

- ・初期胚における体軸形成および神経形成メカニズムの解析
- ・初期発生期における神経機能の解析
- ・光や温度などの外的環境刺激が発生に及ぼす影響の解析

海洋生態学部門

系統進化学分野（中野）

現在地球上に生息している動物の中には、珍無腸動物や平板動物などのように進化学的に重要であるにもかかわらずほとんど研究されていない動物が多く存在します。系統進化学分野では、そのような動物種の形態学的、生態学的、発生学的研究を行うことで、左右相称動物や後生動物の起源、進化、多様性を解明することを目的としています。

研究テーマ

- ・平板動物、珍渦虫、無腸動物などを用いた後生動物の進化と多様性の研究
- ・海産無脊椎動物の動物学的・自然史学的研究
- ・ウミウシの体色多様性進化と系統学的研究

環境生態学分野（Harvey）

私たちは環境変化（海洋酸性化、温暖化、熱波）がどのように私たちの海を変えていくのかを理解しようとしています。フィールド調査、水槽実験、モデリングなど多様なアプローチを行っています。気候変動という面においては、種生態生理学、生物鉱化作用、個体群遺伝学、生物多様性、群集メタバーコーディング、群集構造と相互作用、レジームシフトと安定、生態系機能、生態系サービスなど幅広い題材を扱っています。これらの研究により世界中の沿岸生態系に対する地球規模の気候変動の影響をよりよく理解できます。

研究テーマ

- ・生物多様性、群集構造、安定性に及ぼす海洋酸性化・温暖化の役割
- ・海洋酸性化・温暖化が石灰化・生理・機能に与える影響
- ・海洋熱波が生物地理分布、分布変化、水産養殖に与える影響

進化生態学分野（香川）

海洋は多種多様な生物に溢れています。この多様性はどのようにして生まれたのか。そして、それらはいかにして現在まで維持されてきたか。進化生態学の理論は数多く提唱されてきましたが、その実態はまだ解明されていない部分が多く残されています。フィールドワークや生態実験、統計モデリング、集団・系統ゲノミクスを駆使して、この生物多様性科学の問いに挑戦しています。

研究テーマ

- ・海洋生物の種分化・系統的多様化プロセスの解明
- ・物理環境が集団遺伝構造や集団動態に与える影響
- ・海洋群集構造の規定要因に関する研究

2. センター常駐学生の研究指導

筑波大学生命環境学群生物学類

4年次	イセエビの無鞭毛精子形成における鞭毛関連タンパク質の局在
4年次	シダ類精子における多繊毛分布と走化性応答時の運動解析
4年次	ウニ幼生食道神経の発生
4年次	平板動物H11の飼育系統確立に向けた飼育条件の検討
4年次	ウノアシに寄生するカイアシ類ウノアシノミコトについての研究
4年次	カサゴ亜目魚類から得られた寄生性扁形動物の分類学的研究
4年次	How seasonal intertidal microclimate shapes tidepool and emergent rock communities

筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学位プログラム

博士前期課程1年次	ホヤの変態の分子メカニズム
博士前期課程1年次	クシクラゲ櫛板巨大繊毛の形成メカニズム
博士前期課程1年次	クシクラゲ櫛板繊毛タンパク質の転写調節に関する研究
博士前期課程1年次	日本産 <i>Virroconus</i> 属（腹足綱イモガイ科）の同定と分布
博士前期課程1年次	Development of a method for the quantitative assessment of fish grazing pressure in temperate reefs
博士前期課程2年次	ホヤの変態の分子メカニズム
博士前期課程2年次	二酸化炭素によるニホンウナギ精子の運動停止反応
博士前期課程2年次	サンゴの共生・白化に関連する褐虫藻の運動調節の研究
博士前期課程2年次	バフンウニのモデル生物化研究
博士前期課程2年次	グライコミクスを用いた海洋糖鎖の鉛直分布評価

博士前期課程2年次	熱分解性に基づく海藻藻体の微生物分解速度の推定
博士前期課程2年次	Assessing the Vulnerability of Sea Urchin Early Life Stages to Marine Heatwaves
博士前期課程2年次	Genetic and Environmental Contributions to Skeletal Parameters in Two Coral Genera Across the Pacific Ocean
博士後期課程1年次	マガキガイ異型精子の遊泳方向と顆粒体の分泌
博士後期課程1年次	Impacts of tropicalisation and ocean acidification on marine habitats and their associated biological communities
博士後期課程1年次	The effects of ocean acidification and warming on the interactions between benthic animals and their environment.
博士後期課程2年次	海藻群集からの溶存態有機物の生産量の測定
博士後期課程3年次	Distribution and fluxes of microplastics in Japanese coastal areas
博士後期課程3年次	Predicting genetic lineages of the reef-building corals <i>Porites</i> spp., <i>Pocillopora</i> spp. and <i>Millepora</i> spp. based on colony morphology

3. 論文・著書

海洋生物学部門

遺伝情報学分野

- Kawamorita H, Fujiwara H, Fujita K, Hozumi A, Udagawa S, Yoshida R, Kiyomoto M, Sasakura Y, Ogasawara M. 2026. Possible functional origin of TPO-like genes in chordates revealed by their pleiotropic expression and disturbed phenomena in protochordates. **Cell and Tissue Research**, 403(1): 7.
- Fujiwara H, Nakayama S, Iguchi R, Sekiguchi T, Sasakura Y, Kiyomoto M, Ogasawara M. 2025 Non-Contiguous and Multi-Regional Expression of Pancreas-Related Genes along the Lancelet Gut. **Zoological Science**, 43(1).
- Hozumi A, Totsuka NM, Onodera A, Wang Y, Hamada M, Shiraishi A, Satake H, Horie T, Hotta K, Sasakura Y. 2025 Stimulatory and inhibitory G-protein signaling relays drive cAMP accumulation for timely metamorphosis in the chordate *Ciona*. **eLife**, 13: RP99825.
- Kuroiwa K, Mita-Yoshida K, Hamada M, Hozumi A, Nishino AS, Sasakura Y. 2025 Tunicate-specific protein Epi-1 is essential for conferring hydrophilicity to the larval tunic in the ascidian *Ciona*. **Developmental Biology**, 520: 41–52.
- Saito R, Hyodo T, Kamakura N, Fujikake Y, Nishino JM, Sasakura Y, Nishino AS, Fujiwara S. 2025 *Hox3* Is Required for Post-Metamorphic Heart Development in Adult *Ciona*. **Development, Growth & Differentiation**, 67(9): 500–515.
- Sasakura Y, Sunanaga T, Onuma TA, Satake H. 2025 Germ cell formation and reproduction in tunicates. **Developmental Biology**, 527: 226–249.

細胞生物学分野

- Shibata A, Yamamoto C, Tani Y, Yanase R, Shiba K, Sato Y, Yabuki A, Inaba K. 2025. The photophobic response in the apusomonad *Podomonas kaiyoe* is mediated by coordination of cilia and actin filaments. **Communications Biology** 8(1):1787.
- Yamamoto T, Takeuchi K, Nagata Y, Mizuno A, Harada H, Ishikawa T, Maeda S, Ohka F, Yanase R, Shiba K, Ueno H, Inaba K, Saito R. 2025. Dpcd induces hydrocephalus because of partial defects in the inner dynein arms, with abnormal ciliary motility. **Cytoskeleton (Hoboken)**. 1–13.
- Nakayama T, Harada R, Yabuki A, Nomura M, Shiba K, Inaba K, Inagaki Y. 2025. Marked Genome Reduction Driven by a Parasitic Lifestyle: Two Complete Genomes of Endosymbiotic Bacteria Possibly Hosted by a Dinoflagellate. **Microbes and Environment** 40(2):ME25005.
- Sakato-Antoku M, Patel-King RS, Inaba K, Balsbaugh JL, King SM. 2025. Isoform-specific phosphorylation of axonemal dynein heavy chains. **Molecular Biology of the Cell**. 36(6):ar67.
- Sakato-Antoku M, Patel N, Inaba M, Rao Q, Yang J, Patel-King RS, Inaba K, Balsbaugh JL, King SM. 2025. Phyloproteomics reveals conserved patterns of axonemal dynein methylation across the motile ciliated eukaryotes. **Molecular Biology of the Cell** 36(4):ar49.
- 稲葉一男（監修）『最新 精子学』，筑波大学出版会，2025年12月
- 稲葉一男．精子研究の歴史と現状，精子鞭毛の構造と運動の仕組み，精子形態の多様性と進化，魚類の精子，異型精子の形態と働き，気候変動と精子機能の変化，結語．稲葉一男（監修），『最新 精子学』，筑波大学出版会，2025年12月，pp.1-6, 48-53, 134-139, 157-161, 179-183, 324-327, 331-334.
- 柴 小菊．精子運動の調節機構．稲葉一男（監修），『最新 精子学』，筑波大学出版会，2025年12月，pp.64-68.
- 柴 小菊．細胞の行動．中垣 俊之・石川 拓司（編），『細胞の行動力学』，東京大学出版会，2025年12月，pp.1–45.
- 稲葉一男．日本に張り巡らされた沿岸生物観測ネットワーク，日本海洋学会・日本海洋政策学会（編），『海の事典—海の未来を考える—』（ISBN：978-4-254-18068-8），朝倉書店，2025年10月，pp.256-257.

発生生物学分野

- Tsuyuzaki K, Yaguchi J, Yamamoto T, Ikeo K, Yaguchi S. 2026. Single-cell transcriptomic resources for tracing neurogenesis and cell fate specification in sea urchin embryos. **Development**, 153(4): dev205025.
- Yaguchi S. 2026. Emergence of a Central Nervous System: A Two-Step Evolutionary Model Suggested by Sea Urchin Experiments. **Zoological Science**, 43(1).
- Suzuki H, Yaguchi J, Tsuyuzaki K, Yaguchi S. . 2025. Unraveling the regulative development and molecular mechanisms of identical sea urchin twins. **Nature Communications**, 16(1): 8005.

Yaguchi J, Tsuyuzaki K, Sawada I, Horiuchi A, Sakamoto, N, Yamamoto T, Yamashita T, Yaguchi S. . 2025. Non-visual photoreceptive brain specification in sea urchin larvae. **Nature Communications**, 16(1): 10054.

海洋生態学部門

系統進化学分野

Nakano H. 2025. Placozoa pp.156-157 in ‘Aquatic Small Beautiful Organism- Small Benthos and Plankton Encyclopedia’. ed: Nakamura Y, Yamasaki H, Tanaka H. Asakura Publishing Co., Ltd.

Nakano H. 2025. Xenacoelomorpha pp.172-175 in ‘Aquatic Small Beautiful Organism- Small Benthos and Plankton Encyclopedia’. ed: Nakamura Y, Yamasaki H, Tanaka H. Asakura Publishing Co., Ltd.

環境生態学分野

Hudson CJ, Jolly J, Connell SD, Ravasi T, Harvey BP. 2025. Effects of long-term ocean acidification exposure on the structural, mineralogical, and mechanical properties of sea urchin (*Echinometra* spp.) skeletons at a natural volcanic CO₂ seep. **Environmental Science & Technology**, 59:26454–26468.

Perry CT, De Bakker DM, Webb AE, Comeau S, Harvey BP, Cornwall CE, Alvarez-Filip L, Pérez-Cervantes E, Morris J, Enochs IC, Toth LT, O’Dea A, Dillon EM, Meesters EH, Precht WF. 2025. Reduced Atlantic reef growth past 2 °C warming amplifies sea-level impacts. **Nature**, 646:619–626.

Wada S, Kurosawa S, Agostini S, Harvey BP, Satoh Y, Milazzo M, Hall-Spencer JM. 2025. Elevated carbon dioxide does not increase macroalgal community photosynthesis. **Communications Earth & Environment**, 6:840.

Cornwall CE, Timmerman O, Andersson A, Berbece DM, Branson O, Comeau S, Courtney TA, Donner SD, Enochs I, Harvey BP, Isaak AL, Koch HE, Logan CA, Perry CT, Schoepf V, Toth LT, Webb A. 2026. Persistence of coral reef structures into the twenty-first century. **Nature Reviews Earth & Environment**, 7:151–161.

Evans R, Harvey BP, Marshall KE, Russell BD. 2026. Geographic distribution of mariculture species determines the impacts of thermal variability on growth performance and thermal resilience. **Environmental Research**, 124016.

Firth LB, Desiderato A, Knights AM, Aguirre JD, Astudillo JC, Azofeifa-Solano JC, Bilton DT, Chee SY, Christie HC, Christofolletti RA, Curd A, Dafforn KA, Dethier MN, Dong Y, Droual G, Dubois SF, Espinosa F, Evans AJ, Foggo A, Hawkins SJ, Hanley ME, Harvey BP, Heery E, Hong S, Hsiung AR, Hui TTY, Humet M, Iken K, Jethva SB, Kim JH, Kon K, Konar B, Kundu RS, Lau JWT, Leung KMY, Li X, Sun Y, Lima FP, Lis E, Liversage K, Loke LHL, Martinez AS, Mayer-Pinto M, Mendonça V, McQuaid CD, Moore PJ, Morris RL, Msangameno D, Nieto-Vilela R,

Ondiviela B, Oróstica MH, Ostalé-Valriberas E, Palomo MG, Rinde E, Seabra R, Sibaja-Cordero JA, Silva A, Strain EMA, Todd P, Turner MS, Vinagre C, Wangkulangkul K, Want A, Sempere-Valverde J. 2026. Micro-refuges or ecological traps: context-dependent effects of rock pools on intertidal biodiversity across latitudes. **Global Ecology and Biogeography**, 35:e70208.

Mitchell A, Hayes C, Hudson CJ, Connell SD, Harvey BP, Agostini S, Jolly J, Ravasi T, Booth DJ, Nagelkerken I. 2026. Marine heatwaves, ocean warming and acidification reshape reef fish gut microbiomes. **Molecular Ecology**, 35:e70275.

進化生態学分野

Kagawa O, Itoh H, Nakajima N, Fukumori H. 2025. Phylogenetic history of the acquisition of molluscan hosts in acotylean flatworms. **Biology Letters**, 21:20240721.

Kagawa O. 2025. Host specificity of a chiton-associated flatworm based on field and laboratory observations. **Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom**, 105:e126.

Suenaga T, Saito T, Kagawa O, Suyama Y, Tsunamoto Y, Watanabe S, Yanagisawa T, Taira M, Chiba S. 2026. Hidden in the dark: complex evolutionary history revealed by genome-wide analyses of cave amphipods. **Journal of Evolutionary Biology**, 39:412–422.

技術職員

Fujii M, Ono T, Yamada M, Ooue M, Ito T, Yang J-H, Horiuchi Y, Oiwane H, Wakita M, Wada S. 2025. Biogeochemical properties of shallow-water CO₂ seeps on Himeshima Island and Showa Iwojima Island, Japan. **Progress in Earth and Planetary Science**, 12: 101.

4. 学会発表・講演など

海洋生物学部門

遺伝情報学分野

【ポスター発表】 笹倉靖徳、保住暁子、Wang Yanbin、西野純子、白石慧、渡辺健宏、佐竹炎、西野敦雄、海産脊索動物ホヤ幼生におけるクレアチンシヤトル関連分子の機能、第48回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、神奈川県横浜市 2025.12.4

【ポスター発表】 Yanbin Wang, Akiko Hozumi, Akira Shiraishi, Takeshi Kawada, Honoo Satake, Yasunori Sasakura. *Xbp1.da* transcription factor regulating metamorphosis in *Ciona intestinalis*. 日本動物学会第96回大会、ぽーとめッセなごや、愛知県名古屋市、2025.9.5.

【口頭発表】 笹倉靖徳、Yanbin Wang、ホヤ特異的遺伝子群の変態における機能とその考察、第7回ホヤ研究集会、高知大学、高知県高知市、2025.11.9

【口頭発表】 笹倉靖徳、佐藤ゆたか、三浦徹、吉田学、ナショナルバイオリソース・カタユウレイボヤ事業とその将来、第7回ホヤ研究集会、高知大学、高知県高知市、2025.11.9

細胞生物学分野

【口頭発表】 ○水野なつみ、水野克俊、柴小菊、稲葉一男、山田雅巳、折坂誠、吉田好雄、マウス精子における非ヒストンタンパク質翻訳後修飾の解析、第66回日本卵子学会学術集会、広島コンベンションホール、広島県広島市、2025.5.31-6.1.

【ポスター発表】 ○Katsutoshi Mizuno, Natsumi Shimizu-Mizuno, Tomohiro Kubo, Kogiku Shiba, Kazuo Inaba, Makoto Orisaka, and Masami Yamada, Analysis of the Role of Protein Methylation in Ciliary Function, 2025 JSCB 77th / JSDB 58th Meeting (日本細胞生物学会/日本発生生物学会 合同大会), ウィンクあいち、愛知県名古屋市、2025.7.16-18.

【ポスター発表】 ○Miku Kagawa, Minori Hagita, Takuro Nakayama, Kogiku Shiba, Takako Kato-Minoura, Shinya Matsuda, Kazuo Inaba, Yuji Inagaki, Kentaro Nakano, tARP is an actin-related protein required for ciliary function that is conserved in ciliates and related eukaryotic groups, 2025 JSCB 77th / JSDB 58th Meeting (日本細胞生物学会/日本発生生物学会 合同大会), ウィンクあいち、愛知県名古屋市、2025.7.16-18.

【口頭発表】 ○水野なつみ、水野克俊、柴小菊、稲葉一男、山田雅巳、折坂誠、吉田好雄、マウス精子において非ヒストンタンパク質翻訳後修飾が果たす役割について、第43回日本受精着床学会、名古屋マリオットアソシアホテル/ JR ゲートタワーカンファレンス愛知県名古屋市、2025.8.28-29. *世界体外受精会議記念賞候補演題採択

【口頭発表】 ○横屋 稜、柴 小菊、稲葉 一男、マガキガイ異型精子の顆粒体分泌により正型精子の凝集と細胞死が誘導される、日本動物学会第96回名古屋大会 2025、ポートメッセなごや、愛知県名

古屋市, 2025. 9.4-6.

【口頭発表】○森 凜太郎, 柴 小菊, 稲葉 一男, 二酸化炭素によるニホンウナギ精子の運動停止反応, 日本動物学会第 96 回名古屋大会 2025, ポートメッセなごや, 愛知県名古屋市, 2025. 9.4-6.

【口頭発表】○岩本裕之, 横屋稜, 芝山雄基, 小坂実央, 大岩和弘, 稲葉一男, 急速凍結したクシクラゲ櫛板の X 線回折像から再構成した繊毛軸糸の 3 次元構造, 日本動物学会第 96 回名古屋大会 2025, ポートメッセなごや, 愛知県名古屋市, 2025. 9.4-6.

【口頭発表】○木下 颯, 柴 小菊, 吉田 学, 吉田 薫, カタユレイボヤ精子運動活性化における pH 変化の影響, 日本動物学会第 96 回名古屋大会 2025, ポートメッセなごや, 愛知県名古屋市, 2025. 9.4-6.

【国際会議】【招待講演】 Kogiku Shiba, Chemotaxis Strategy of Ascidian Sperm Revealed by “Ethological Dynamics in Diorama Environments”, Oxford-Japan Symposium on Cell Behaviors in Simple to Complex Environments, Mathematical Institute, University of Oxford, Oxford, UK, 22nd–26th, September 2025.

【ポスター発表】○水野克俊, 水野なつみ, 柴小菊, 稲葉一男, 伊藤貴文, 折坂誠, 山田雅己, マウス精子における核外タンパク質メチル化の機能解析, 第 98 会日本生化学会大会, 国立京都国際会館, 京都府京都市, 2025.11.3-5.

【口頭発表】柴小菊, 精子鞭毛運動調節メカニズムに関する研究, 第 7 回ホヤ研究会, 高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟 2 号館 222 番教室, 高知県高知市, 2025.11.8-9.

【口頭発表】稲葉一男, 繊毛の多様性と進化, 第 14 回繊毛研究会, 名古屋市立大学桜山キャンパス同窓会館, 愛知県名古屋市, 2025.12.18-19.

【口頭発表】○柴小菊, 稲葉一男, 吉田学, 中垣俊之, 飯間信, ホヤ精子走化性における倍数変化感知 (FCD) モデルの検証, 生体運動研究合同班会議 2026, KDDI 維新ホール, 山口県山口市, 2026.1.9-11.

【口頭発表】○朝賀伸一, 北之坊誠也, John Murray, Ke Hu, 柴小菊, 稲葉一男, 共生に伴うサンゴ細胞骨格タンパク質の動態解析, 生体運動研究合同班会議 2026, KDDI 維新ホール, 山口県山口市, 2026.1.9-11.

【口頭発表】○森 凜太郎, 柴 小菊, 稲葉 一男, 二酸化炭素によるニホンウナギ精子鞭毛の運動抑制メカニズム, 生体運動研究合同班会議 2026, KDDI 維新ホール, 山口県山口市, 2026.1.9-11.

【口頭発表】○森 凜太郎, 柴 小菊, 稲葉 一男, 二酸化炭素によるニホンウナギ精子鞭毛の運動抑制メカニズム, 生体運動研究合同班会議 2026, KDDI 維新ホール, 山口県山口市, 2026.1.9-11.

【口頭発表】○岩本裕之, 横屋稜, 大岩和弘, 稲葉一男, クライオ電顕データを利用した運動中の繊毛軸糸の構造予測, 生体運動研究合同班会議 2026, KDDI 維新ホール, 山口県山口市, 2026.1.9-11.

【国際会議】【招待講演】 Kogiku Shiba, Makoto Iima, How Ascidian Sperm Navigate Toward Eggs Using

Chemical Gradients: Integrating Experiments and Mathematical Models, The 2nd International Symposium on Cellular Ethological Dynamics in Diorama Environments, Hall 8A, 8th Floor, TKP Garden City PREMIUM Sendai Nishiguchi, Sendai, Miyagi, 2026.3.13.

【ポスター発表】○横屋 稜, 柴 小菊, 稲葉 一男, マガキガイ異型精子の顆粒体分泌により正型精子の凝集と細胞死が誘導される, 学術変革領域研究(A)「ジオラマ環境で覚醒する原生知能を定式化する細胞行動力学」第 8 回領域全体会議, 東北大学片平キャンパス片平さくらホール, 宮城県仙台市, 2026.3.14-15.

発生生物学分野

【ポスター発表】○須賀 文香, 谷口 順子, 谷口 俊介, エゾバフンウニ(*Strongylocentrotus intermedius*)のモデル生物化への挑戦 2026, 日本動物学会 関東支部第 78 回大会, 埼玉大学 2026.3.14.

【ポスター発表】○直井 幸喜; 長塚 愛生; 谷口 順子; 谷口 俊介, ウニ幼生における食道神経の発生 2026, 日本動物学会 関東支部第 78 回大会, 埼玉大学, 埼玉県さいたま市 2026.3.14.

【招待講演】YAGUCHI Shunsuke, Light-modulated neural control of sphincter regulation in the evolution of through-gut 2025 日本生物物理学会第 63 回大会, 奈良県コンベンションセンター, 奈良県奈良市 2025.9.24-26.

【国際会議】【口頭発表】YAGUCHI Shunsuke, Developmental single-cell transcriptomics illuminates molecular pathways involved in sea urchin neurogenesis 2026, Developmental Biology of the Sea Urchin and Other Marine Invertebrates XXVIII, MBL, Woods Hole, MA, USA, 2025.4.2-5.

海洋生態学部門

系統進化学分野

【口頭発表】○波々伯部夏美、藤原義弘、河戸勝、小川晟人、自見直人、酒向実里、下岡敏士、福岡雅史、手良村知功、喜瀬浩輝、齋藤直輝、櫛田優花、中野裕昭、白木祥貴、関口翔悟、角井敬知、小林格、Kurt Bryant B. Bacharo、木村昭一、木村妙子、「しんかい 6500」で明らかになった熊野灘・志摩海脚のベントス相、2025 年 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会、東北大学新青葉山キャンパス 青葉山コモンズ、宮城県仙台市、2025.9.9-12

【口頭発表】【招待講演】○埴宗継、小田賢幸、中野裕昭、平板動物の個体間融合と卵母細胞形成誘導：単純な体構造と柔軟な融合能を併せ持つ実験材料としての可能性、日本動物学会第 96 回大会、ポートメッセなごや、愛知県名古屋市、2025.9.4-6

【ポスター発表】林牧子、神澤由己、星野修、○中野裕昭、ヒドロ虫上にみられる未記載種を中心とした扁形動物門原卵黄目の系統分類学的研究、日本動物学会第96回大会、ポートメッセなごや、愛知県名古屋市、2025.9.4-6

【ポスター発表】○林牧子、香川理、神澤由己、山田彩斗、ジョシュア・ハイツマン、深町昌司、中野裕昭、分子系統解析に基づいたイロウミウシ科アオウミウシ属の系統の再検討、日本動物学会第96回大会、ポートメッセなごや、愛知県名古屋市、2025.9.4-6

【ポスター発表】○埴宗継、小田賢幸、中野裕昭、平板動物キメラの個体間融合の多様性と行動変化、日本動物学会第96回大会、ポートメッセなごや、愛知県名古屋市、2025.9.4-6

【ポスター発表】○林牧子、香川理、神澤由己、山田彩斗、ジョシュア・ハイツマン、深町昌司、中野裕昭、イロウミウシ科アオウミウシ属の分子系統解析、日本貝類学会令和7年度大会、東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス、東京都千代田区、2025.5.17-18

【ポスター発表】○山田彩斗、中野裕昭、伊豆半島南部沖水深 60m 以深の浅海域でのドレッジ採集による有殻腹足類相調査、日本貝類学会令和7年度大会、東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス、東京都千代田区、2025.5.17-18

環境生態学分野

【口頭発表】○Rhian Evans, Ben P Harvey, Bayden D. Russell, The effects of summer and winter marine heatwaves on growth is determined by latitude and species traits, 2025 International Temperate Reefs Symposium, 2025.7.1-5

【口頭発表】○Callum Hudson, Ben P Harvey, Sean Connell, J. Jolly, T. Ravasi, Long-term ocean acidification exposure negatively impacts the structural and mechanical properties of sea urchin skeletons at a natural volcanic CO₂ seep, 2025 International Temperate Reefs Symposium, 2025.7.1-5

【口頭発表】○Sylvain Agostini, Jason Hall-Spencer, Ben P Harvey, Natural analogues of the future ocean to understand and protect marine ecosystems under climate change and ocean acidification, One Ocean Science Congress, 2025.6.3-6

【ポスター発表】○Yiyi Li, Callum J. Hudson, Rhi Hunt, Ben P Harvey, Effect of ocean acidification on the ecological and physiological responses of two sea urchin species *Echinometra* sp. A and *Diadema setosum*, 2025 International Temperate Reefs Symposium, 2025.7.1-5

【ポスター発表】○Renata Ramos Gomes, Thamiris Christina Karlovic de Abreu, Maria de Lourdes Zani

Teixeira, Michel Michaelovitch de Mahiques, June Ferraz Dias, Integrating Acoustic Surveys and

Biological Sampling to Characterize Ecosystems: A Case Study in the Alcatrazes Archipelago, São Paulo, Brazil, 2025 International Temperate Reefs Symposium, 2025.7.1-5

【ポスター発表】○Halyna Romashko, Ben P Harvey, Assessing the vulnerability of sea urchin early life-stages to marine heatwaves, 2025 International Temperate Reefs Symposium, 2025.7.1-5

【ポスター発表】○Ryoji Fukui, Sylvain Agostini, Development of a method for the quantitative assessment of fish grazing pressure in temperate reefs, 2025 International Temperate Reefs Symposium, 2025.7.1-5

【口頭発表】○Yiyi Li, Ben P Harvey, Effect of ocean acidification on the ecological and physiological responses of two sea urchin species, *Echinometra* sp. A and *Diadema setosum*, 2025 ESSAS Annual Science Meeting: “Ecological, social and economic dynamics of high-latitude coastal systems”, 2025.6.24-26

【招待講演】○Ben P Harvey, Ecosystem shifts under ocean acidification and warming – insights from CO₂ seeps and other natural analogues, 2025 ESSAS Annual Science Meeting: “Ecological, social and economic dynamics of high-latitude coastal systems”, 2025.6.26.

進化生態学分野

【招待講演】香川理, 貝を乗り換えて生まれた種 奄美で発見されたカイゴロモの種分化, 第53回鹿大島嶼研勉強会 奄美分室で語りましょう, 2025.6.2.

【口頭発表】○石井康人, 平野尚浩, 上島励, 千葉聡, 伊藤舜, 香川理, 種内系統が示す気候変動への応答の差異: ゲノミクスと生態ニッチモデリングの統合, 日本貝類学会令和7年度大会, 2025.5.17.

技術職員

5. プレスリリース

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20250620141500.html>

ホヤが大人になるための時間を計る仕組みを解明 (笹倉靖徳)

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20250905180000.html>

ウニが双子をつくる仕組みを解明 (谷口俊介)

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20251120141500.html>

ウニ幼生に光で行動を調節する脳のような神経細胞群が存在することを発見（谷口俊介）

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20251225140000.html>

鞭毛・繊毛の進化の鍵となる単細胞生物アプソモナドの光回避応答を発見（稲葉一男）

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20260226190000.html>

ウニ胚と幼生の発生過程を単一細胞レベルで追跡できるデータベースを公開（谷口俊介）

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20251209100000.html>

CO₂ シープは未来の海を知る 「自然の実験室」（Ben P Harvey）

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20250924140000.html>

気温 2°C上昇でサンゴ礁が成長不能になり沿岸浸水リスクが増大する（Ben P Harvey）

6. 受賞

笹倉靖徳ら、Development, Growth and Differentiation Editor-in-Chief Prize 2025

笹倉靖徳ら、Zoological Science Award and Fujii Award 2025.9.4

7. 新聞・テレビ等

稲葉一男, TBS ラジオ 秘密諜報員みなみかわ第 8 回「ミクロの毛から生命進化のルーツを探れ」,
2025.5.22.

谷口俊介 日テレ「ザ・鉄腕 DASH」2025 年 6 月 19 日 監修

8. 国際共同研究

イスラエル・Tel Aviv University Oded Rechavi 博士ら

「Rediscovering Vienna's lost "Epigenetic" treasure に関する研究」 (笹倉)

アメリカ・コネチカット大学医学部 Stephen M. King 博士

「繊毛鞭毛タンパク質の構造、機能に関する研究」 (稲葉)

チェコ共和国・サウスボヘミア大学 Otomar Linhart 博士,

「チョウザメ精子のタンパク質の解析」 (稲葉)

メキシコ・メキシコ国立自治大学 (UNAM) 西垣卓也博士,

「後生動物における精子鞭毛運動制御の共通性と多様性」 (稲葉・柴)

アメリカ・ハワードヒューズ医療研究所ジャネリア Teng-Leong Chew 博士,

「ハプト藻運動装置の微細構造に関する研究」 (稲葉)

スイス・ポール・シェラー研究所 Takashi Ishikawa 博士,

「軸糸ダイニンの分子構造に関する研究」 (稲葉)

オーストラリア・ディーキン大学 Alecia Bellgrove 博士,

「褐藻配偶子の運動に関する研究」 (稲葉・柴)

アメリカ・アリゾナ州立大学 Hu Ke 博士,

「サンゴと褐虫藻の共生関係に関する研究」 (稲葉)

アメリカ・フロリダ大学 Joseph Ryan 博士

「クシクラゲの感覚受容器に関する研究」 (稲葉)

オランダ・ユブレヒト研究所 Miguel Leung 博士

「クライオ電子顕微鏡による繊毛構造の解析」 (稲葉)

アメリカ・Stanford 大学 Hunter Fraser 博士、Tal Gordon 博士、Ayelet Voskoboynic 博士、

「ホヤの発生と再生に関する研究」 (笹倉)

アメリカ・Swarthmore 大学 Bradley Davidson 博士、Hannah Gruner 博士、CJ Pickett 博士、

「ホヤの変態と成体組織構築に関する研究」 (笹倉)

スウェーデンなど・イエテボリ自然史博物館など Kennet Lundin 博士等

「珍無腸動物門の系統学的位置に関する研究」 (中野)

フランス・Marseille Institute for Developmental Biology Andrea Pasini 博士

「平板動物の細胞の機能に関する研究」 (中野)

ドイツ・キール大学 Harald Gruber-Vodicka 博士

「平板動物の共生生物に関する研究」 (中野)

イギリス・Southampton 大学 Luis A. Yañez-Guerra 博士

「平板動物の細胞伝達に関する研究」(中野)

アメリカ・Brown 大学 Gary M. Wessel 博士,

「棘皮動物におけるゲノム編集に関する研究」(谷口)

フランス Sorbonne 大学 Jenifer Croce 博士,

「ウニ幼生の神経形成に関する研究」(谷口)

イタリア、フランス、他 ICONA Network (Ben Harvey)

ニュージーランド・Victoria University of Wellington Chris Cornwall 博士

「Carbonate production and coralline algae responses to climate change」(Ben Harvey)

香港・University of Hong Kong Bayden Russell 博士

「Temperature tolerance and impacts of marine heatwaves on marine organisms」(Ben Harvey)

オーストラリア・University of Adelaide Ivan Nagelkerken 博士, Sean Connell 博士

「Environmental change and fish behavioural ecology in a changing ocean」(Ben Harvey)

9. 企業との共同研究

10. 会議・シンポジウム・研究会の開催

教育活動

1. 授業・臨海実習

臨海実習

期 間	大 学 等 名	実 習 等 名	人数
2025.5.26-30	静岡大学理学部生物科学科	生物科学臨海実習	17
2025.6.9-12	山梨大学生命環境学部環境科学科	環境生物学実習（臨海実習）	17
2025.7.7-11	筑波大学生物学類	動物発生学臨海実習	13
2025.7.21-25	筑波大学生物学類	動物分類学臨海実習	14
2025.8.4-8	筑波大学生物学類	生物学公開臨海実習 「伊豆半島沿岸の生態と多様性」	2
2025.8.25-29	筑波大学	水圏生態学臨海実習	14
2025.9.8-12	筑波大学生物学類	生殖生物学臨海実習	15
2025.9.18-19	名古屋大学	大学院実習（森林生物調査法）	12
2025.9.23-26	筑波大学自然保護寄附講座 筑波大学理工情報生命学術 院生命地球環境学研究群	マリン生態環境科学 「海の生物と環境の相互作用」	3
2025.10.6-8	筑波大学大学院共通	海洋生物の世界と海洋環境講座	8
2026.1.20-23	健康科学大学健康科学部	海洋生物臨海実習	9
2026.3.2-6	筑波大学生物学類	水圏生物学実習	13
2026.3.16-20	筑波大学生物学類	植物分類学臨海実習	18

講義・演習

期 間	大 学 等 名	実 習 等 名	人数
2025.6.30-7.4	筑波大学理工情報生命学術 院生命地球環境学研究群	サイエンスプレゼンテーション	5
2025.8.18-22	筑波大学	夏季集中授業「マリンスポーツ」	13
2026.1.26-28	筑波大学生命環境学群生物 学類	生物寺子屋	2
通年不定期開催 (オンライン)	筑波大学理工情報生命学術 院生命地球環境学研究群	マリンバイオロジー特論	7
2024.11.7-8	筑波大学理工情報生命学術	マリン分子生命科学I	2

(オンライン)	院生命地球環境学研究群		
---------	-------------	--	--

2. 実演と講習会

第 36 回国際生物学オリンピック派遣生徒の特別教育

3. 学会活動、社会貢献

Zoological Science (Advisory board) (稲葉一男)

Zoological Letters (Associate Editor) (稲葉一男)

日本学術会議連携会員 (稲葉一男)

日本動物学会関東支部代表委員 (稲葉一男)

日本動物学会男女共同参画委員 (柴小菊)

日本動物学会関東支部委員 (柴小菊)

マリンバイオ共同推進機構 JAMBIO 機構長 (中野裕昭)

JAMBIO 沿岸生物合同調査 (担当) (中野裕昭)

World Association of Marine Stations (WAMS) Management Group (中野裕昭)

World Association of Marine Stations (WAMS) Steering Committee (中野裕昭)

日本動物学会 ZDW (ZooDiversity Web) 委員 (中野裕昭)

Scientific Reports (Editorial Board) (中野裕昭)

理科年表 生物部 (監修) (中野裕昭)

World Association of Marine Stations (WAMS) Secretariat (Harvey)

日本発生生物学会理事 (谷口俊介)

日本動物学会国際交流委員 (谷口俊介)

日本動物学会教育委員 (谷口俊介)

Scientific Reports (Editorial Board) (谷口俊介)

Development Growth and Differentiation (Editorial Board) (谷口俊介)

幼魚水族館バフノウニ・エゾバフノウニ展示 (谷口俊介・谷口順子)

4. 実験材料の提供

埴 宗継 山梨大学大学院総合研究部医学域, アカヒトデ、ムラサキウニ、ボウシュウボラ、
ウミシダ

柴田 大輔 神奈川工科大学応用化学生物学科, オニヤドカリ、ウミウシ、ナマコ、
アカヒトデ、ムラサキウニ

野村 真未 山形大学 理学部 理学科 植物プランクトン
ホヤ研究者コミュニティ, カタユウレイボヤ遺伝子組換え系統

5. 社会公開教育関係

公開講座・講演会

国際生物学オリンピック日本委員会 第1回特別教育（高校生6名に対する教育）、2025年3月31日-4月2日、筑波大学下田臨海実験センター

柴小菊, 「海の中のミクロの世界—鞭毛と繊毛」, 下田市水産・海洋学講座, 2026年3月3日, 下田市民文化会館

稲葉一男, 「マリンステーションの歴史と過去・現在・未来における意義」, 「さまざまな海産生物の鞭毛・繊毛の研究」, 公開臨海実習における招待講演, 2026年3月9日, 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所

センター利用研究者

1. センター利用者の主な研究課題

研究課題名	研究代表者所属	人数	受入担当
カタユレイボヤ卵へのマイクロインジェクション技術の習得	高知大学	1	笹倉
ホヤ胚を用いた発生生物学実験	早稲田大学	1	笹倉
研究打合せ	北海道大学	2	笹倉
共生微生物についての研究打ち合わせを	産業総合研究所	2	笹倉
実験方法の確認および習得	サントリー生命科学財団	1	笹倉
クシクラゲ類カブトクラゲを用いた実験	自然科学研究機構 生命創成探究センター	1	稲葉
繊毛虫テトラヒメナのアクチン様タンパク質およびMAFに関する研究打ち合わせ	筑波大学	1	稲葉
クシクラゲ幼生を用いた拡張顕微鏡法の利用のため	Heidelberg University	1	稲葉
クシクラゲおよびその他の海産無脊椎動物における繊毛の構造と機能	フロリダ大学 ホイットニー海洋生物科学研究所	1	稲葉
Behavior analysis for ctenophore sleeping	筑波大学	1	稲葉
ウニの殻と棘の、構造および運動機構の解析	中央大学	2	稲葉
ホヤ精子の顕微鏡観察とサンプリング	福井大学学術研究院医学系部門医学領域	1	稲葉
シダ類および褐虫藻の運動制御に関する研究打ち合わせ（共同研究）	名古屋大学大学院生命農学研究科	2	稲葉
クラミドモナスの粘性環境下での繊毛波形解析	大阪大学大学院理学研究科	2	稲葉、柴
1)エダアシクラゲ放精過程に見られる精巣上皮繊毛の運動解析、2)コモリクラゲ触手の先端の運動解析	広島大学	4	柴
ニホンウナギ胚のライブイメージングによる体節形成機構の解析	自然科学研究機構基礎生物研究所	2	柴
実験打合せと施設見学	静岡大学	1	柴
上衣細胞の微細構造解析ならびに in vivo イメージングに関する共同研究の打ち合わせ	筑波大学生命環境系	3	柴

織毛虫テトラヒメナのアクチン様タンパク質の機能欠損の解析	筑波大学生命環境系	2	柴
ウニアミノ酸解析の共同研究	九州大学大学院薬学研究院	2	谷口
ウニ遺伝情報解析の共同研究	千葉大学	2	谷口
タイワンホウキガニおよびクラゲムシ類の採集	北里大学海洋生命科学部	4	谷口
バフンウニ胚を用いた実験	ブラウン大学	1	谷口
ムラサキウニの受取(生殖巣の発達度合いの確認)	神奈川工科大学工学部応用化学生物学科	1	谷口
下田臨海実験センターとの共同研究に関する相談	静岡県水産海洋技術研究所伊豆分場	1	谷口
下田臨海実験センター利用の可能性に関する議論	合同会社デトロイト トーマツ	2	谷口
海中ロボット試験	東京大学生産技術研究所	13	谷口
研究打ち合わせ	IRD ニューカレドニア	1	谷口
鍋田湾内における水温分布計測	筑波大学システム情報系	14	谷口
一般社団法人タラオセアンジャパン Tara JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト調査・啓発イベント	タラ オセアン ジャパン	14	谷口
一般社団法人タラオセアンジャパン Tara JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト啓発イベント		12	谷口
ウミウシ類など海産無脊椎動物の採集、観察、分子系統解析	慶應義塾大学経済学部生物学教室	1	中野
J-OBIS と RINKAI とのデータ連携にかかる打ち合わせ	海洋研究開発機構	1	中野
Placozoa diversity and microbiomes (Exchange of placozoa strains for research on the placozoa development and microbiome)	Kiel University, Germany	2	中野
プラスチックプレートに付着したバイオフィルムの定性および定量評価	筑波大学理工情報生命学院	1	中野、柴、Harvey
海産無脊椎動物を用いた進化系統学的研究に関する打ち合わせ、研究室見学	株式会社スパイスボックス	1	中野
海藻類の青い構造色に関する研究	九州大学	2	中野
海中クローラーの海域試験 (小型の海中クローラーをつくばIIに搭載し、主に砂地の浅海域において走	海洋研究開発機構	7	中野

行性能に関する各種試験を行う。)			
恵比須島における藻類の調査	東京海洋大学	6	中野
生物進化に関する高校生課題研究の相談・打ち合わせ	筑波大学附属駒場高等学校	2	中野
第 27 回 JAMBIO 沿岸生物合同調査	東京大学	12	中野
珍無腸動物の進化学的研究 / Evolutionary studies on Xenacoelomorpha	東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所	1	中野
平板動物の多様性に関する研究	山梨大学	1	中野
平板動物を対象とした睡眠に関する共同研究	東京大学理学系研究科	3	中野
小型 CO2 計設置、「つくば II」に各種センサーを設置、センサー点検・回収	気象研究所	2	Harvey
Harvey 助教の培養システムの見学と打ち合わせ	筑波大学生命環境系	1	Harvey
Manuscript preparation and publication with collaborator	広島大学・瀬戸内 CN 国際共同研究センター	1	Harvey
ブルーカーボンに対する海洋酸性化の影響予測	広島大学・瀬戸内 CN 国際共同研究センター	2	Harvey
日本全国の藻場の光合成測定	広島大学・瀬戸内 CN 国際共同研究センター	2	Harvey
海洋酸性化の生物への影響について研究打ち合わせ・実験	沖縄科学技術大学院大学	1	Harvey
施設水槽を利用したセンサー運用試験に関する打ち合わせ・現場確認	産業技術総合研究所	2	Harvey
海洋観測（式根島）観測機器準備作業	産業技術総合研究所	3	Harvey
海洋酸性化がウニに及ぼす生理学的・分子生物学的影響の研究	早稲田大学	1	Harvey
海洋酸性化がウニに及ぼす生理学的・分子生物学的影響の研究	沖縄科学技術大学院大学	1	Harvey
環境省モニタリングサイト 1000（沿岸域調査）に関する藻場調査	三重大学大学院	14	Harvey
飼育設備の見学・研究打合せ	東京大学大学院農学生命科学研究科	3	Harvey
伊豆半島における陸生貝類によるきのこ類の子実体摂食に関する調査研究	慶應義塾大学経済学部	1	香川

2. 利用者の業績

発 行

筑波大学下田臨海実験センター

〒415-0025 静岡県下田市 5 丁目 10-1

TEL : 0558-22-1317 / FAX : 0558-22-0346

URL: <https://www.shimoda.tsukuba.ac.jp>

E-mail: jim@shimoda.tsukuba.ac.jp (事務室)